

第 4 回加賀市ビジョン策定委員会議事録

1 開会

2-（1）第 3 回策定委員会の振り返り

前回の策定委員会の議事録を確認し、その内容について承認を得た。

2-（2）加賀市ビジョン素案について

加賀市ビジョン素案について、資料を基に説明した。（資料 3）（参考）

【山田委員】

- 参考資料の「加賀市ビジョン「重点テーマ」候補一覧」の①-No.3 の概要欄の記載について、「グルメ」という言葉が出てくるが、言葉遣いの修正が必要だと思う。

事務局回答：修正させていただく。

【山口委員】

- 最終ページにある図中「03 取組状況や成果を確認」の部分について、タイトルと記載内容が同じことを言っているように見える。この図の中だと透明性という観点を記載するならこの部分かなと思うので、追加してみてもどうか。

事務局回答：以前より市政運営の透明性というものは表現しているが、この図に記載があるサイクル全体を回していくうえで、透明性という観点は全体的に大事になってくるので、それを伝わりやすい形にしたい。

またタイトルと記載内容が同じに見えるとのことなので、タイトルの書き方とともに、記載内容も、PDCA サイクルのチェックの部分をしっかり行っているということを分かりやすいような表現に修正したい。

【山口委員】

- 16 ページ中、道標の名前、道標の概要、重点テーマの 3 つ目にて「暮らしの安心安全」という言葉が出てきて、全て同じ事を言っているように見えた。

事務局回答：概要の記載は、暮らしの安心安全は視点の中の大前提であるという前置きの部分なので、タイトルと重複するのはある程度仕方ないと思うが、重点テーマの部分にまで出てくると、改めてみるとしつこさを感じるという意見はもっともだと思うので、分かりやすく、くどくない形で示したい。

【田向委員】

- 15 ページ目の重点テーマ中「若者が就職、結婚出産等」という記載について、前回山口委員から固定概念化されているのではという意見が出たが、修正はしないということではなかったか。

事務局回答：修正が必要か内部で協議をしたところ、重点テーマのタイトルというよりは、参考資料である重点テーマの概要の部分で、「自分らしく」ということを表現するのがいいのではないかという意見をいただいたため、担当部局とも相談した。それに加え、担当部局からも山口委員にご相談をさせていただいたうえで、概要の記載を変更するという形をとった。

【山口委員】

- ライフデザイン推進機構の委員として、担当部局と様々な相談を行った。事務局からの説明のとおり、重点テーマの概要にこの意見を反映させたので、資料 3 の修正は簡単なものとなっているが、後ほど確認する資料 4 にはこれが反映されているので、また比べながら確認を行いたい。

【高山委員】

- 2030 年までのビジョンとのことだが、それぞれの重点テーマと、2030 年が目標期間であ

る SDGs との関係について、どう整理するか。また、加賀市はデジタル田園健康特区に指定されているので、DX や GX が施策・事業とどのように関わり、これを推進していくかということが大事になる。これらのことは強く前面に押し出す必要はないが、参考資料などに明記するのは重要だと思う。

事務局回答：加賀市の SWOT 分析にも記載はあったが、前提として、デジタル田園健康特区は加賀市の強みだと認識している。これまでも、この強みを生かしていくべきではないかという意見を委員からいただいているが、個別具体的で細かい話になってくるので、現在は直接的な記載はしていない。ただ、資料 3 の 14 ページの道標の説明には、特区の強みを生かし、新たな企業や産業を呼び込みながら、既存の産業との融合を図っていきたいという思いが込められている。また、デジタルの面については資料 3 の 17 ページ中「財政の持続可能性」の説明の部分で「人口減少や社会情勢の変化を踏まえつつ、デジタル化による行政運営の効率化」というように、効率的な行政 DX 化について触れさせていただいた。ただ、GX の分野については現時点ではビジョンに記載はない。

【高山委員】

- 特区は加賀市の強みのはずなのに、全然表にも出てこないとなると、加賀市の本気度が疑われるのではないかな。

事務局回答：特区が加賀市の強みであることは重々承知しているが、このビジョンは市政運営の方向性を示す羅針盤である。特区はこれらを進めていくうえで重要な手段という位置づけだと思っているので、手段を目的化するような書き方をしないよう、注意をしなければいけないと考えている。そのため、あまり前面に出さないという考え方をとっている。

【高山委員】

- SDGs との関係についてはどうか。

事務局回答：現在は結びつきについての記載はない。参考資料で言及をするなど、分かるような表現は考えたい。

【加藤委員】

- 9 ページ中「海、山、河川、湖」とあるが、「河川」だけ 2 文字なので「川」だけではだめか。

事務局回答：そのように修正する。

【山口委員】

- 15 ページの道標の重点テーマには、「産官学連携」や「若者」という言葉や、現在行われている施策が見えるような言葉があり、未来に対するビジョンのようなものがイメージできるが、14 ページ中の「産業」の部分について、若者から選ばれる、働きたいと思える加賀市という視点での記載がなく、淡々と現状の施策や事業を進めるといったような内容に見え、未来が感じられない。

事務局回答：各分野の推進にかかる視点については、一つの視点で完結するものもあれば、様々な分野の視点をかけ合わせるものもある。14 ページに記載の産業分野は、15 ページに記載の産官学の連携をうまくかけ合わせて事業を進めていくというような位置づけを想定している。

【委員長】

- 山口委員の意見を受けて、関係部局との調整をお願いしたい。

事務局回答：14 ページの内容を全て若者目線にするというよりは、そういう目線もありつつ分野ごとには分けているということや、別の視点とのかけ合わせによる推進という考えも欲しいので、その点を加味したうえで調整を行いたい。

【林委員】

- このビジョンをどのような形で市民に配布するのか伺いたい。

事務局回答：広報かがに折り込みを入れたい。今回配付した冊子型にするか、概要版を出して都度お知らせする機会を設けるかなどの展開を考えている。

【増野委員】

- ビジョンの対象は市民全体だと思うが、やはり若者にこのビジョンを見てもらって、加賀市はこういう方向性で進むということを分かってもらうことが、これからの加賀市の力になると思った。戦略的に、どの層に焦点を当てるかを考えないと、ビジョンの推進は難しいと感じた。若者が期待されているという思いがビジョンにつながっていくということをはっきりと示してもいいのではないかなと思った。

事務局回答：このビジョンは市民、事業者、行政が一体となって加賀市を創り上げていくための方向性を示すということが大前提としてある。その上で、若者への期待という思いも意識しながらビジョンを作っているのも、まだほかにこういったものもあったほうがいいのではないかなという意見があれば、いただければと思う。

【加藤委員】

- 市が主体となって、中学生に加賀市の魅力を教え、生徒自身で考えることができるような授業ができればいいと思う。

事務局回答：ビジョンの目指すところとして、加賀市の魅力の磨き上げという点や、郷土愛を醸成し、次世代に継承していくという点が含まれているので、委員のご意見にある取組も重要であると考えている。

2-（2）加賀市ビジョン素案について

加賀市ビジョン素案について、資料を基に説明した。（資料4）

※資料4は、資料3や重点テーマ一覧に記載の文言の内容をイメージしやすいように、イラストによる表現を取り入れたものであるが、現時点ではまだ完全に出来上がっているものではない旨を、内容の説明に先立って、事務局から説明した。

※4・5ページの真ん中の4枚の絵について、最終的には1枚の絵とし、加賀温泉駅を拠点としたにぎわいや、居場所づくりといったイメージを前面に出す予定であることを事務局から説明した。

【山口委員】

- 目指す姿（4・5ページ）について、誘導的な意図を感じるため不要だと思う。6ページ以降の4つの道標のところから、イラストの効力は発揮されると思う。4・5ページはどういう意図で作成したのか。

事務局回答：目指す姿の「もっと住民が幸せな加賀市」について、イメージが湧きにくい部分もあると思うので、未来の加賀市の目指すべき姿を見開き1枚で表現した。

【三浦委員長】

- 個人的な意見になるが、表紙のイラストの下に「もっと住民が幸せな加賀市へ」と記載があるので目指す姿（4・5ページ）は不要だと思う。

【加藤委員】

- はじめに（1ページ）について、人口減少、少子高齢化、若者の流出の文字が重複しているので修正してください。

事務局回答：修正する。

- 4つの道標のページ枚数について、「地域資源の価値を高めます」と「暮らしの安心安全を支えます」は2ページ分使用しているが、「地域の活力を育みます」と「こども・若者

の学びと成長を支えます」は1ページ分しか使用していない。何か意図はありますか。

事務局回答：4つの道標は全て大事だと思うが、特に力を入れて進めていきたい「地域資源の価値を高めます」と「暮らしの安心安全を支えます」のページ数を多くした。

●イラストのテイストについては、小中学生は気に入ると思う。

●「こども・若者の学びと成長を支えます」のページ枚数を増やせるのであれば、中谷宇吉郎雪の科学館と深田久弥山の文化館のイラストを追加して欲しい。

事務局回答：イラストを増やしすぎると、イラストに引っ張られすぎてしまう恐れもあるため、量については、皆さんの意見を踏まえて検討したいと思う。

【山口委員】

●「地域の活力を育みます」と「こども・若者の学びと成長を支えます」も「地域資源の価値を高めます」と「暮らしの安心安全を支えます」と同じくらい重要だと思う。

【山田委員】

●地域資源の価値を高める（7ページ）について、「ご当地グルメ」という言い回しが気になる。加賀市の魅力は温泉と食の文化だと思うので、例えば、カニ、坂網鴨、果物などの歴史的な地域資源を押し出してほしい。特にカニは加賀市の一大資産だと思うので強調しても良いと思う。

事務局回答：歴史を含めた体験型観光という要素も大事だと思う。当初のデザイン案ではイラストの数が多く、見にくい部分もあったため、イラストの数を減らしたのが現状である。いただいた意見を踏まえて、食文化的な要素はイメージとして加えようと思う。

【山口委員】

●坂網猫、坂網鴨はビジョンに載せるべきだと思う。その際には、イラストではなく写真を使用した方が良いと思う。

【山田委員】

●イラストや写真が多く掲載されている冊子にしたほうが読みやすくいいと思う。

【田向委員】

●目指す姿（4・5ページ）の、駅前のにぎわいを表現しているイラストについて、何を描いていますか。

事務局回答：加賀温泉駅を拠点としたにぎわい（商業施設など）を表現している。具体的な建物を描いたものではなく、あくまでにぎわいを表現している。

●現状はこのような建物はないので、市民が見たときに、このような建物ができると思い、衝撃を受けると思う。

●各地区のにぎわいよりも、加賀温泉駅中心のにぎわいを重視し、効率的なまちにするというメッセージが感じられ、誘導的に感じる。

事務局回答：今のイラストだと加賀温泉駅前に、にぎわいを集中させていくというメッセージ性が強いという意見を踏まえ、このページの扱いについては検討する。

●イラストのようなショッピングセンターは全国どこにでもあると思う。

●地元の高校生は喜ぶと思うが、このショッピングセンターを目的に来る観光客は少ないと思う。各地区の魅力を高めたほうが、観光客は来ると思う。

【三浦委員長】

●加賀市ビジョンは2030年度までの計画期間なので、タイトルも「加賀市ビジョン 2030」にしたほうが良いと思う。

【辻委員】

●地域の活力を育みます（4ページ）について、技術的に難しい大型のドローンのイラスト

があるが、大型のドローンの製造や活用を推し進めていくという意図か。個人的には賛成である。

事務局回答：デジタル田園健康特区の強みを活かして新産業の創出を進めるという意図でドローンのイラストは載せており、新産業の創出は進めていくつもりだが、4年後のゴールをイラストで表現しているわけではない。現状だけをイラストにしてしまうと、ビジョンとして夢がないという意見もこれまでいただいていたので、このようなイラストになっている。

【増野委員】

●理念体系（3 ページ）について、イラストで表現しないほうが良いと思う。また、4 つの道標は並列の方が良いと思う。

事務局回答：4 つの道標ごとのイラスト表現について、あえて強弱をつけているが、4 つの道標はすべて同じレベル感で進めていくべきというご意見もいただいたので、表現について検討する。

●4 つの道標（6 ページから 11 ページ）のタイトル横の文字（「伝統産業・文化の継承」など）は不要かと思う。

事務局回答：タイトル横の文字（「伝統産業・文化の継承」など）については、理念体系の「過去から学ぶ」と「未来に挑戦する」に列記している文字を加えていたが、伝わりにくいかもしれないので、削除することも検討する。

【山口委員】

●3 ページについて、理念体系に記載のある「過去から学ぶ」「未来に挑戦する」とページ下部に記載のある「過去から学ぶ」「未来に挑戦する」の関連が分からない。

事務局回答：「もっと住民が幸せな加賀市へ」向かう視点としては4つの道標を掲げており、その中でも意識するポイントとして、「過去から学ぶ」「未来に挑戦する」という区分けを入れた。

●「若者が就職・結婚・出産等のライフデザインを描けるような環境を構築します」（9 ページ）について、文言がこれでいいかどうかを市の担当部局と相談する。

【田中委員】

●イラストはあくまで文章の補完のため、記載している文章との関連があればどのようなものでも問題ないと思う。加賀市とかけ離れた表現はよくないと思うのでその点は注意が必要。

事務局回答：基本的にそれぞれの文章に関連するイラストを意識しているが、目指す姿（4・5 ページ）のところは、文章以上のメッセージを伝えたいと考えている。今日いただいた意見を踏まえ、慎重に考えたい。

【高山委員】

●イラストですべてを表現せずに写真を使ってもいい。

●四季について、春から秋までは表現されているが、冬はない。

●重要伝統的建造物群保存地区、坂網鴨、カニなどの加賀市の特徴的なものについて、写真を掲載し、これからも守っていくという姿勢を示すべきではないか。

事務局回答：イラストと写真の両方をバランスよく掲載することを検討する。

3 その他

4 閉会

事務局からの事務連絡